

Dr. 中路の健やか通信 (其の10)



健やか協力隊長

中路



第10回 われらのふるさと青森県について

長崎の諫早（いさはや）高校を卒業して、浪人生活を経て、やっと私を捨ててくれたのが弘前大学でした。それから47年、70歳を目前にしてふと青森が染みついてきたと感じる昨今です。高校野球を見ていて気づかないうちに青森県をまず第一に応援している自分に気づいたのが20年近くたった頃でした。やはりそのくらいの時間がかかりました。最近では、光星学院や山田高校に青森出身者が少ないのを嘆き、それでも応援してしまう自分を嘆いている自分がいます。

県外から来たからこそ青森県の良さが実感できるのだと思います。

津軽三味線が大好きで、それを誇りにしている私はある日テレビを見ていました。そこには、今をときめく津軽三味線奏者の木乃下真市（和歌山出身）が出演していたのです。その彼が放った一言を聞いた私の胸は熱くなりました。「津軽三味線奏者としての私には劣等感がある。それは青森・津軽に住んだことがないことである」。ギュッと抱きしめてやりたかったです。津軽でない所にお住いの皆さんすみません。これは一つの“例”ですから。

鶴が羽を広げたような形の我が青森県は、太平洋と日本海に面した唯一の県であり、四季は極めて明瞭です。しかもそのいずれもが美しく、輝きを放っています。らんまんの花と新緑の春、錦絵をほうふつとさせる紅葉の秋は特筆ものです。そこに絶妙に配された山（八甲田、岩木山）、海（太平洋、日本海）、湖（十和田湖、小川原湖、十三湖）、川（岩木川など）、湾（陸奥湾）のラインアップもただ見事です。

日本で最も美しい姿形を誇る湖、十和田湖。津軽平野に孤高にそびえ立つ岩木山。そしてそれに隣接するわが国最初の世界自然遺産、白神。そこから広がる津軽平野。年中強風が吹きまくっている龍飛崎。雪の岩木を借景に配した桜、松緑そして弘前城。とてつもないスケールの縄文遺跡三内丸山。野趣あふれる下北半島。意外に知られてない温泉王国青森県。そして祭り。青森のねぶたは文句なくすごいですね。どうして日本三大祭りに名乗りをあげないのでしょう。津軽の弘前ねぶた、五所川原立佞武多もいいですが、八戸の夏の三社大祭。豪華絢爛で、胸躍ります。

私の大好きな演歌、相撲、リンゴ、ナガイモ、ホタテ、ニンニクなどなど全部青森が本場です。

このように魅力あふれる青森県は40の市町村で構成されています。それぞれの市町村はそれぞれの特徴を持ち、その総力がこの素晴らしい県をつくり上げているのです。

短命県は誇れるものではありませんが、その前に、この県が心から誇れる県であることを忘れてはいけないと思います。

